専門研修プログラム名	ハートランドホスピタルグループ 専門研修プログラム		
基幹施設名	一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん		
プログラム統括責任者	長 徹二		
専門研修プログラムの概要	床設他彩ら人経ら精者の検て学チな立門をポ置望り会育労おりしにな老信殿入神の症者の連マど高外中グローす、、を支りといてお老信殿入神の症をの連マど高外中グしす、、を支りにの様、ン治専がにフ唯者体献った。院で特応検なのをを医り職一身本併読お職研を開いませ、一般が表現をという。 いっぱい アイル はいい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	当院は、奈良県最大の精神科病院で80余年の歴史があり、その時代の二一ズに合わせた精神科医療を行っています。現在は、精神科教急医療(精神科スーパー教急病棟72k)、認知症医療、精神科身体合併症医療、常勤内科医名・常勤放射線科医1名)などに重点を置いています。また、2016年度より「子どもと大人の発達センター」を開設し、児童服务期だけでなく成人の発達障害を診療できるようになりました。2019年度より「認知行動療法センター」を開設するなど精神療法にも重点を置いています。また、2016年度より「子どもと大人の発達センター」を開設し、児童服务期だけでなく成人の発達障害を診療できるようになります。とい地域活動支援センター」を開設するなど精神療法にも重点を置いています。まな関係に認知症疾患医療センター・ゲルーブホーム・特別養護を人ホームなど多がおな関係施設を有し、地域ケア体制が充実していますので、外末から入除。温院後のケアといた一貫した精神科医療を学ぶことが可能です。そしてその対象は、子供からそき年期まで全年齢層に渡ります。2020年1月より臨床教育センターを創設し、体験を通して学習する臨床教育システムの導入を開始しています。連携施設 1:一般財団法人信責山病院分院上野病院は伊賀園域では一般財団法人信責山病院分院上野病院は伊賀園域では一般財団法人信責山病院分院上野病院は伊賀園域では一般財団法人信責山病院分院上野病院として、地域医療機関との連携、そして行政・保健福祉・教育はよび司法との関係が観密で、多くの症例がら入院、退院後のケアで、訪問者医ステーション、地域活動支援センター、グルーブホームなど多系な関係に変なり、大規検デイケアで、訪問者医ステーション、地域活動支援センター、グルーブホームなど多系な関係施設を含した地域が充実しているので、外本初診から入院、退院後のケアに至るまで、一責した精神科経療を学ぶことが可能である。児童からを半期まで幅広い年齢院にかたって多な技術神障者を含めら入院、退院後のケアに至るまで、一責した精神科を機会を学ぶことが可能である。現金からなどの生物を発生がままり、現金が発生が表しましたが、の主な機関であり、本群・ナーブクラスの中間外未が制度が表が表しましたが可能であり、本群・ナーブクラスの中間外未が制度が表しましたが可能であり、最大の機能を発きを持ているが、大力を持ている。の生婦に対している。東欧度に入院体表に対している。東欧度に入院性表を持ているいの生物を持ているが、大力を対している。実施を消費を持ている。大規検院とは、大規検に対している。大性検に指している、実施を消費を持ている。大規検に対している、実施を消費を持ている。大規を関係を持ているが、大力を持ている。大力を対している。大力を持ているが、大力を対している。大力を対しているが、大力を対したいるの連携を持ているが、大力を対している。大力を対しているが、大力を対している。大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しなが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しために対しまれているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しまれているが、大力を対しまれているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を持定が、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しないのでは、大力を対しないるが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しているが、大力を対しないるが、大力を対しないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹施設での専攻医研修には、大きな特徴が3つあります。当院での研修の1つ目の特徴は、専攻医が主体となって研修プログラムを組むことができることです。例えば、臨床面では、病棟(主に急性期)で第一線の主治医として担当し、指導医が定期的なカルテチェックと週1回以上のカンファレンスを行いバックアップする体制をとってい強金・症例検討会・児童精神医学勉強会・子どもと大人の発達センターの指導医診察の陪席や外来担当をしてもらっています。学術面では、臨床教育センター勉強会・症例検討会・児童精神医学勉強会・子どもと大人の発達センター症例検討会・子どもと大人の発達センターの強達の会の自己にの表している。 1 世界の大人の発達をは、1 世界の大人の発達を表します。 1 世界の大人の大人の発達を表します。 1 世界の大人の大人の発達を表します。 1 世界の大人の大人の大学を表します。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大人の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまれるため、1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまれるため、1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまれるため、1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を表しまます。 1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を表しませます。 1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を表しませる。1 世界の大学を表しまれる。1 世界の大学を		
専攻医の到達目標	修得すべき知 識・技能・態度 など	専攻医は精神科専攻医研修マニュアルにしたがって、研修期間中に以下の領域の専門知識を広く学 ぶ必要がある。 1)患者及び家族との面接 / 2)疾患の概念と病態の理解 / 3)診断と治療計画 / 4)補助検査法 / 5)薬物・身体療法 / 6)精神療法 / 7)心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉 / 8)精神科教急 / 9)リエゾン・コンサルテーション精神医学 / 10)法と精神医学 (鑑定、医療法、精神保健福社法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度等) / 11)医の倫理 (人権の尊重とインフォームド・コンセント) / 12)安全管理・感染対策。なお、精神科領域プログラムでの研修を受けるにあたっては、日本精神神経学会の会員であること を要件とする。精神科ブログラムの研修開始前において、速やかに手続きをそうことととする。 ii 専門技能(診察、検査、診断、処置・手術など) 専攻医は精神科専攻医研修マニュアルにしたがって、研修期間中に以下の通り専門技能を習得する。 1)患者及び家族との面接:面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を維持する。 2)診断と治療計画:精神・身体症状を的確に把握して診断・鑑別診断し、適切な治療を選択するとともに、経過に応じて診断と治療を見直す。 3)薬物療法:向精神薬の効果・副作用・薬理作用を習得し、患者に対する適切な選択、副作用の把握 と予防及び効果判定ができる。 4)精神療法・患者の心理を把握するとともに、治療者と患者の間に起る心理的相互関係を理解し、適 切な治療を行い、家族との協力関係を構築して家族の潜在能力を大事にできる。支持的精神療法を 施行でき、認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導のもとに実践する。 5)補助検査法:病態や正状の大事に個のための各種検査を行うことができる。具体的にはCT、MR I 誘誘、脳波中制族、各種心理テスト、症状評価表な差:病を症状の必要にないてきる。 8)リエゾン・コンサルテーション精神医学・他科科教急:精神運動興奮状態、急性中毒、離脱症候群等への対応と治療ができる。 7)法と精神医学:精神保健福社法全般を理解し、行動制限事項について把握できる。 8)リ 神科リハビリテーションよび地域精神医療:患者の機能の回復、自立促進、健康な地域生活維持のための種々の心理社会的療法やリハビリテーションを実践できる。 10)各種精神疾患について、必要に応じて研修指導医から助言を得ながら、主治医として診断・治療ができ、家族に説明することができる。	
	各種カンファレ ンスなどによる 知識・技能の習 得	定期的なカンファレンス、症例検討会を毎週実施し、多様な指導医や多職種とともに考える機会を豊富に提供できる。また、医局の図書も充実しており、精神科関連の国内雑誌はすべて取り揃えている。常勤放射線科医の指導のもと、画像所見についての検討や常勤内科医の指導のもと、身体合併症や器質性精神疾患についても学べる。そして、児童・思春期精神障害については診だけではなくリハビリテーションについて作業療法士とともに学ぶことができ、アルコール・薬物依存症についてはリハビリ施設で暮らす患者さんのサポートも含めて、症例が学べる。希望者は学会発表や症例発表論文や臨床研究にも参画でき、その際に求められるスキルや姿勢についても指導体制が整っている。	
	学問的姿勢	精神医学は診断基準が文章で構成されており、具体性に欠ける部分や科学的根拠が未解明な部分が多く、現在標準的に行われていることが数年後には標準ではなくなっていることもありうる。従って、患者さんを漫然とみるのではなく、患者さんから発信されるメッセージを鋭敏に読み取りながら、創造する姿勢が必要であり、些細なことに疑問を持つ習慣が大切である。そのためには現在の標準的な医療を学習しておく必要があり、基幹施設では、入職時に集中的な精神医学講義が行われ、標準的な精神科医療の基本を学べる。そして、毎週行われる勉強会、生例検討会、カンファレンスでは、実際の症例を通して、標準的な医療、創造的な医療を学ぶことができる。また、日常診療で遭遇する諸問題は医学的に解決可能な問題だけではなく、その人の生活背景も絡んだ複雑なものであることが多い。そのため医師のみならず多職種スタッフとともにケースカンファレンスを行う機会を継続的に提供する。さらに、学会や院外で行われる各種勉強会への参加も推奨しており、指導医が同行してサポートすることも可能である。	
	医師に必要なコ アコンピテン シー、倫理性、 社会性	基幹施設では、専門領域を超えて医師として当然身に付けるべきである医療倫理、医療安全、感染対策等のコアコンピテンシーに関しては、研修開始時に基幹施設において学習する機会が用意されている。精神科特有の医療安全研修として CVPPP (包括的暴力防止プログラム) などの研修会も基幹施設で毎年実施されており、医療安全、感染管理、医療倫理などについての研修会がそれぞれ年 1 回以上開催され、専攻医もそれに出席する。日本精神神経学会をはじめとする学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医療倫理、医療倫理、医療倫理、医療倫理、医療倫理、医療倫理、医療倫	

施設群による研修プログラ ムと地域医療についての考 え方	年次毎の研修計 画	年次到達目標 1 年目:基礎 まず、面接の基本を指導医から学び、体験を通して患者さんの苦悩に共感し寄り添う姿勢を身につける。 病気の症状や問題 と協働する習慣を身に着け、入院患者さんを中心に受け持ち、指導医の指導を受けながら、主治医として面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。行動制限の考え方や手続きなど、精神保健福祉法の基本を学習し、人権や安全に配慮する素養も身に着ける。 ※ 新療法及び精神療法の基本を学ぶ。行動制限の考え方や手続きなど、精神保健福祉法の基本を学習し、人権や安全に配慮する素養も身に着ける。 ※ 非孫法及び精神療法の基本を学習したり、時間にとりすることによって面接の技法、患者さんとの関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。 受け持った入院患者さんが外来に移行した場合は、指導医の指導を受けながら担当し、退院後の経過や地域生活を送るうえでの必要な知識や方法を多職権から学ぶこともできる。 当直は指導医とともに月 2 一個行い、教念対応、精神保健福祉法をはじめとする法律の知識、医療安全などを学ぶ。 また、精神科リハビリテーションとしてデイケア、集団で行う心理プログラムを見学して呼び、退院前訪問看護や訪問看護に同行し、患者さんの自宅での様子や地域との関わりについても体験を通してデイケア、集団で行う心理プログラムを見学して呼び、退院前訪問看護や訪問看護に同行し、患者さんの自宅での様子や地域との関わりについる患者さんについてのケア会議などに参加し、精神疾患の重症者は病院ではなく地域で暮らしていることについて、体験を通して学ぶ。知識の習得においては、就任して2か月で専門講義を集中的に実施し、毎週検討会や勉強会に参加し、専門医取得に必要な基礎から応用までを学ぶ。分別がで強いでは、就任して2か月で専門講義を集中的に実施し、毎週検討会や勉強会に参加し、専門医取得に必要な基礎から応用までを学ぶ。 お説の習得においては、就任して2か月で専門講義を集中的に実施し、毎週検討会や勉強会に参加し、専門医取得に必要な基礎から応用までを学ぶ。 なイメージを徐々に伸ばしていく。そして、より重症度の高い患者もんの担当を広げる、外に変しれら動きを徐し付はしていく。そして、より重症度の高い患者もんの担当を広げて、の対域を指導をと加入を持て、対域を保険についても取り組みを続け、指導医とともに、精神保健福祉法と患者さんの人権についてさらに理解を深め、医療倫理観を涵養する。さらに、論文作成や学会発表のための基礎知識について受ける研究会などで症例発表する。3 年目:独り立ち 2 年間の経験を踏ままて、指導医から自立して診療さぞ免みのも必然が最終にあれば、臨床研究・監床治験に参加することもできる。 希望により、上野病院や大阪会会などで症例発表し、論文作成を行う。希望があれば、臨床研究・臨床治験に参加することもできる。	
	研修施設群と研修プログラム	一般財団法人信貴山病院分院上野病院では、地域医療機関との連携、そして行政・ 保健福祉・教育および司法との関係が親密で、多くの症例が経験できる。大規模デイケア、訪問看護ステーション、地域活動支援センター、グループホームなど多彩な関係施設を有し地域ケア体制が充実している。大阪公立大学医学部附属病院神経精神科では、教員の指導を受けながら、看護職、心理職、精神保健福祉士とチームを組み、地域精神保健の業務に同行したり、産学連携で企業とのやり取りについても経験できる。国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターでは国立高度専門医療研究センターでの研究の経験も積み、反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)、電気けいれん療法(ECT)の専門外来があり専門家による高度な指導を受けながら貴重な症例を経験できる。CBTセンターで本場のCBTに関する研究や実践に触れることが可能になる。	
	地域医療について	行政委託事業(長期退院促進事業・認知症疾患医療センター・認知症初期集中支援チーム・奈良県精神科救急輪番・保健所嘱託医など)に積極的に取り 組むとともに、救急急性期入院治療(措置入院、移送入院を含む)にも力を入れている。また、希望者には東日本大震災後の復興支援としての地域精神 保健実習も可能である。	
専門研修の評価	評価と、チームの	平価を実施する。3か月ごと、ないし研修の場の終了時に評価を専門研修指導医により専攻医とともに行う。1年に4回程度の評価を行い、専攻医自身の自己 ロメディカルスタッフ(看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士など)と専門研修指導医の評価を記載しながら、専門研修指導医が専攻医に対 ログを行い、統括責任者をまとめを振り返る機会を持つ。	
修了判定	3年以上の研修を行い、研修を終えた時点で研修期間中の研修項目の達成度、多職種による評価、経験症例数を評価し、それまでの形成的評価を参考として、専門的知識、専門的技能、医師としての備えるべき態度を習得しているかどうか、並びに医師としての適性があるかどうかをプログラム管理委員会の審議を経て判定を行い、研修を修了を決定する。その際の修了判定基準は到達目標の達成ができているかどうかを評価する。		
専門研修管理委員会	専門研修プログ ラム管理委員会 の業務	6か月に1回プログラム管理委員会を開催し、研修プログラム管理委員会は研修プログラム統括責任者、研修基幹施設ならびに研修連携施設の研修指導責任者、研修施設管理者、研修指導医、研修に関連する多職種(看護師、作業療法士、精神保健福祉士、心理技術職など)で構成され、専攻医および研修プログラム全般の管理と継続的改良を行う。	
	専攻医の就業環境	いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。	
	専門研修プログラムの改善	随時指導医が窓口になり、改善点があれば直ちに研修管理委員会の議題に挙げて検討し、必要であれば修正し、専攻医のニーズに合った内容に対応する 柔軟性を持ち、プログラムを改善し続ける。	
	専攻医の採用と 修了	日本専門医機構IPに掲載される案内を確認の上、専攻医の募集・採用を行い、面接と試験を通して、その結果をプログラム管理委員会で協議し、採用と 終了について合議で決定する。	
	研修の休止・中断、プログラム 移動、プログラ ム外研修の条件	研修の休止や中断、プログラム移動に関しては身体や家庭の事情により柔軟に対応する。そして、プログラム外研修の条件はプログラムの内容から大き く逸脱しない限りはなるべく専攻医の希望に沿う。	
	研修に対するサ イトビジット (訪問調査)	随時可能	
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	長)、根來秀樹 人 大阪公立大学 (国立研究開発)	相団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん 臨床教育センター センター長)、徳山明広(一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん 院 (一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん 副院長)、平尾文雄 (一般財団法人 信貴山病院 内・ に に い に で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	
Subspecialty領域との連続 性	子どものこころ真	専門医や認知症学会専門医の学会認定研修施設でもあり、いずれの指導医が在籍し、いずれの資格を取得することも可能である。	